

12 関数行列式と積分変数の変換

1 座標系 (x_1, x_2, \dots, x_n) が座標系 (u_1, u_2, \dots, u_n) によって

$$x_1 = f_1(u_1, u_2, \dots, u_n), x_2 = f_2(u_1, u_2, \dots, u_n), \dots, x_n = f_n(u_1, u_2, \dots, u_n)$$

のように表されるとき, 関数行列式 (Jacobian) は, 以下のように定義される。

$$J \equiv \frac{\partial(x_1, x_2, \dots, x_n)}{\partial(u_1, u_2, \dots, u_n)} \equiv \begin{vmatrix} \partial x_1 / \partial u_1 & \partial x_1 / \partial u_2 & \cdots & \partial x_1 / \partial u_n \\ \partial x_2 / \partial u_1 & \partial x_2 / \partial u_2 & \cdots & \partial x_2 / \partial u_n \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ \partial x_n / \partial u_1 & \partial x_n / \partial u_2 & \cdots & \partial x_n / \partial u_n \end{vmatrix}$$

(1) $|J|$ は, x_1, x_2, \dots, x_n 空間と u_1, u_2, \dots, u_n 空間において互に対応する体積 (2 次元の場合は面積) の比を表す。これを $x = au + bv, y = cu + dv$ の場合について確認せよ (a, b, c, d は定数)

(2) $x + y = u, x = uv$ のとき, $\frac{\partial(x, y)}{\partial(u, v)}$ を計算せよ。

(3) (2) の結果を用いて, ガンマ関数とベータ関数

$$\Gamma(p) = \int_0^{\infty} e^{-x} x^{p-1} dx, B(p, q) = \int_0^1 x^{p-1} (1-x)^{q-1} dx$$

の関係式 $B(p, q) = \frac{\Gamma(p)\Gamma(q)}{\Gamma(p+q)}$ を証明せよ。ただし, p, q は正の実数である。

2 極座標系 (r, θ, φ) と xyz 直交座標系の関係は

$$x = r \sin \theta \cos \varphi, y = r \sin \theta \sin \varphi, z = r \cos \theta$$

で与えられる。

(1) $\frac{\partial(x, y, z)}{\partial(r, \theta, \varphi)}$ を計算せよ。

(2) 原点を中心とする半径 a の球面を S とし, $\mathbf{A} = (x^3, y^3, z^3)$ とするとき, 面積分 $\int_S \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}$ を計算せよ。